

# 薬草だより

## 橋本竹二郎の植物画紹介

### その1

樋口 剛央\*

ヤハズホオノキ (モクレン科)

*Magnolia officinalis* var. *biloba* (Magnoliaceae)

生薬名：厚朴 (コウボク)

樹皮を薬用部位とする。半夏厚朴湯、柴朴湯、平胃散、五積散等に配合される。



ハトムギ (イネ科)

*Coix lacryma-jobi* var. *mayuen* (Gramineae)

生薬名：薏苡仁 (ヨクイニン)

種皮を除いた種子を薬用部位とする。薏苡仁湯、桂枝茯苓丸加薏苡仁、麻杏薏甘湯等に配合される。



ハマスゲ (カヤツリグサ科)

*Cyperus rotundus* (Cyperaceae)

生薬名：香附子 (コウブシ)

根茎を薬用部位とする。芎帰調血飲第一加減、香蘇散、竹茹温胆湯、柴胡疏肝湯等に配合される。



### 橋本竹二郎

松浦薬業株式会社顧問

#### 来歴

1931年東京に生まれる。

牧野富太郎氏らと親交。津村研究所 (現ツムラ)、名城大学薬学部、富山大学和漢薬研究所のほか、複数の製薬会社の顧問等を経て、現在に至る。

#### 主な著書

「山路の花しるべ」(共著、巧玄出版、1977)、「北陸の自然誌」(里見信生 編著、巧玄出版、1979)、「目で見る薬草百科-見分け方・採取時期・薬効と使い方」(永岡書店、1984)、「薬草・花を描く-ハーブドローイング植物画を楽しもう」(日貿出版社、1994) ほか